アーモンド本格栽培へ

湧水・鹿北製油　自社農場など7ヘクタール

8月、500キロの収穫見込む

植物油製造・販売の鹿北製油（湧水町、和田久輝社長）が、アーモンドの栽培に取り組んでいる。種子はナッツのほか、油はマッサージやアロマオイルとして重宝され、搾りかすは菓子材料として利用される。国産原料を使った加工品の商品化は国内初。耕作放棄地の活用など地域経済の起爆剤として関係者の期待を集めている。

同社がアーモンドに興味を持ったのは8年前。湧水町から町内に栽培する人がいると聞き、「暖かい地域の作物というイメージ。雪も霜も降る湧水町で栽培できるか、最初は半信半疑だった」という。

2009年から本社農場と宮崎県三股町の契約農場で栽培を始めた。試行錯誤の連続で、植栽した1200本のうち200本は伐採を余儀なくされたが、昨年8月に試験的に収穫したところ、味、香りとも海外産と遜色のないことが分かった。今年8月には収穫を本格化する予定で、約7㌧で種子（殻付き）ベース500㌔の収穫を見込む。

アーモンドはバラ科サクラ属の植物で、サクラより一足早い3月上旬に開花し見頃の期間も長い。

和田社長は「将来は花の時期に『アーモンドウオーク』といった観光イベントにつなげたり、ナッツの販売を障害者施設に委託したりするなど地域経済の循環に貢献できれば」と、将来像を語った。（谷上英文）

3㌢ほど大に育ったアーモンドの実を手にする和田久輝社長＝湧水町米永の鹿北製油

PED子豚被害7000万円

宮崎県試算「沈静化の傾向」

宮崎県は11日の県議会一般質問で、豚流行性下痢（PED）により死んだ子豚の直接的被害額が約7千万円に上ることを明らかにした。また、5月22日を最後に県内での発生がないことから「沈静化の傾向が見られる」との考えを示した。

県は、これまでに死んだ子豚約2万9千頭を基に、1頭当たり2400円の評価額を掛け合わせ、直接的被害額を試算した。

ただ、河野俊嗣知事は「試算はあくまで現時点での子豚の直接被害額。半年後に出荷し得たであろう利益の逸失分もあるだろう。個々の農家で経営状況も違うので、きめ細やかに被害を把握することが必要だ」とした。

ガソリン価格7週連続上昇

経済産業省資源エネルギー庁が11日発表した9日時点のレギュラーガソリン1㍑当たりの全国平均小売価格は、2日の前回調査と比べて60銭高い166円60銭だった。値上がりは7週連続で2008年9月29日（170円20銭）以来の高値水準が続いている。

鹿児島（離島分含む）はレギュラーが20銭高の174円60銭、ハイオクが10銭高の183円80銭だった。

イオンが姶良市と協定

人材育成に協力

姶良市とイオン九州（福岡市）は11日、人材育成協定を結んだ。イオン姶良店が、市職員や市内の小中学生を

調査した石油情報センターによるとウクライナ情勢の緊迫が続